

# 肥料をめぐる情勢

---

令和 4 年 8 月

農政部生産振興局技術普及課

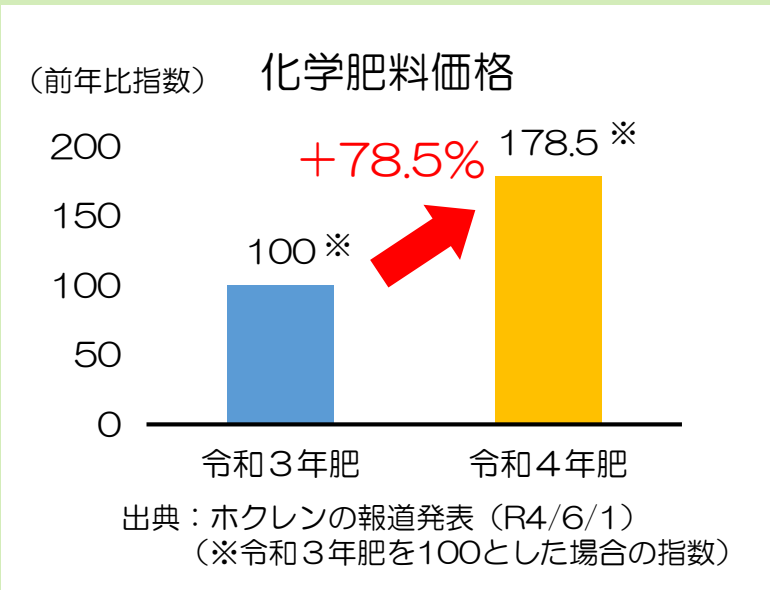


# 肥料価格の高騰対策

## 現状・課題

世界的な穀物需要の増加やエネルギー価格の上昇により、肥料原料価格が高騰

- 肥料原料価格が昨年に比べ大幅に上昇  
 (R4.3/R3.3比 尿素2.17、リン安2.18、塩化加里2.20)
- 大規模経営は、肥料価格高騰の影響が大きい



## 道の緊急対策

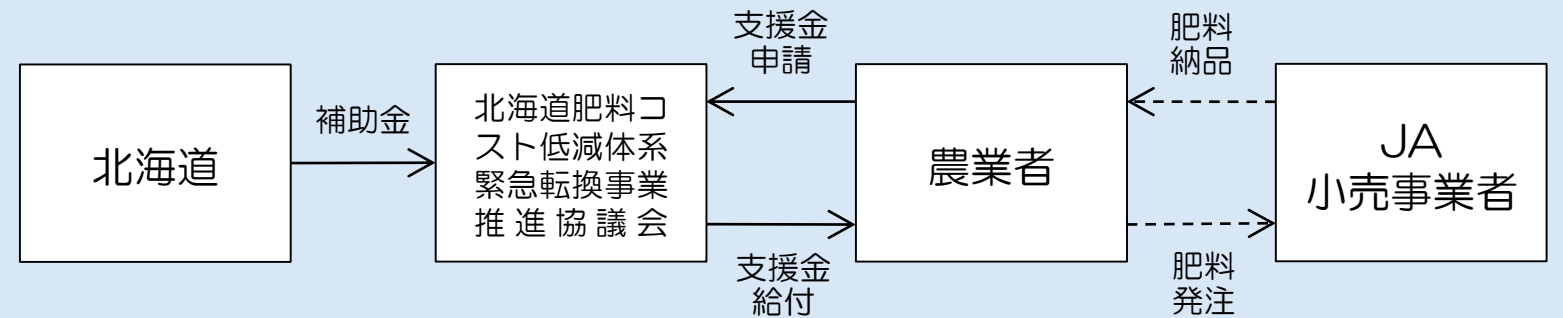
国の対策により、肥料コスト低減体系への転換に向けた取組を推進するとともに、農業者が直面する肥料価格高騰に対する負担軽減を図るため、肥料購入支援として定額給付を実施

### ○ 化学肥料購入支援金給付事業 【令和4年度補正 21億円】

〈新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金活用〉

肥料購入費の負担を軽減するため、農業者に肥料購入支援金を給付

- 定額 3,125円/t (上限)



## 国の緊急対策

### ○ 肥料コスト低減体系緊急転換事業 【令和3年度補正 45億円】

肥料コストを低減する技術を活用した取組などを支援

- 土壌診断に基づく施肥設計の見直しを支援
- 肥料コスト又は施肥量を低減する技術を活用した取組の実証を支援

### ○ 化学肥料原料調達支援緊急対策事業 【令和4年度一般予備費 100億円】

肥料製造事業者が代替国から原料調達する場合の掛かり増し経費を緊急的に支援

### ○ 肥料価格高騰対策事業 【令和4年度コロナ対策予備費 788億円】

肥料価格の高騰による農家経営への影響を緩和するため、化学肥料の2割低減の取組を行う農業者に対して肥料コスト上昇分の7割を支援

## 国への提案

- 肥料価格の高騰に対応したセーフティネットの構築と肥料の安定確保に向けた十分な対策を要望

肥料価格高騰の影響緩和と「みどりの食料システム戦略」の目標（2030年：化学肥料使用量を20%低減）達成に向け、農業のグリーン化を推進

# 1 肥料について

- 肥料の「三要素」は、窒素（N）、りん酸（P）、加里（K）。
- 「二次要素」は、カルシウム、マグネシウム等。「微量元素」は、ホウ素、マンガン等とされている。

## 〔三要素〕

	各成分の働き
窒素(N)	植物(特に葉)の成長を促す。
りん酸(P)	開花結実を促す。
加里(K)	根の発育を促す。

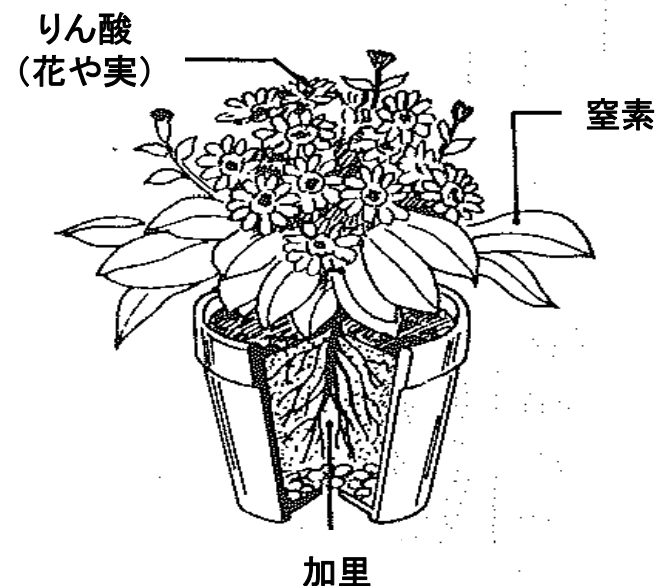
## 〔二次要素〕

	各成分の働き
カルシウム(石灰)	植物による肥料成分の吸収を容易にする。
マグネシウム(苦土)	植物の新陳代謝を活発にする。
硫黄	葉緑素の生成に資する。

## 〔微量元素〕

	各成分の働き
ホウ素、マンガン、鉄、銅、亜鉛、モリブデン、塩素、ニッケル	植物の細胞膜などの形成維持やタンパク質の生成を助けるなど植物の健全な成長に資する。

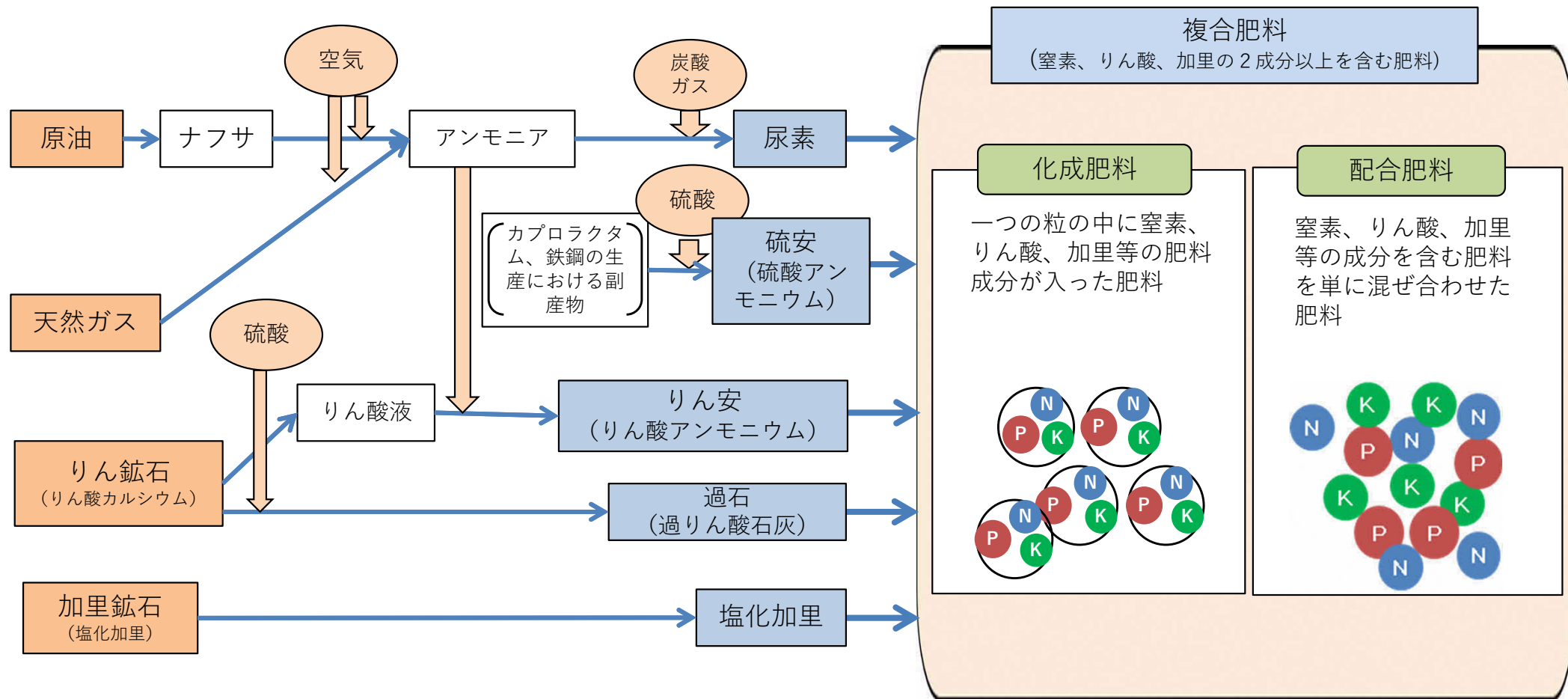
## 肥料の三要素の役割



## 2 化学肥料の製造工程

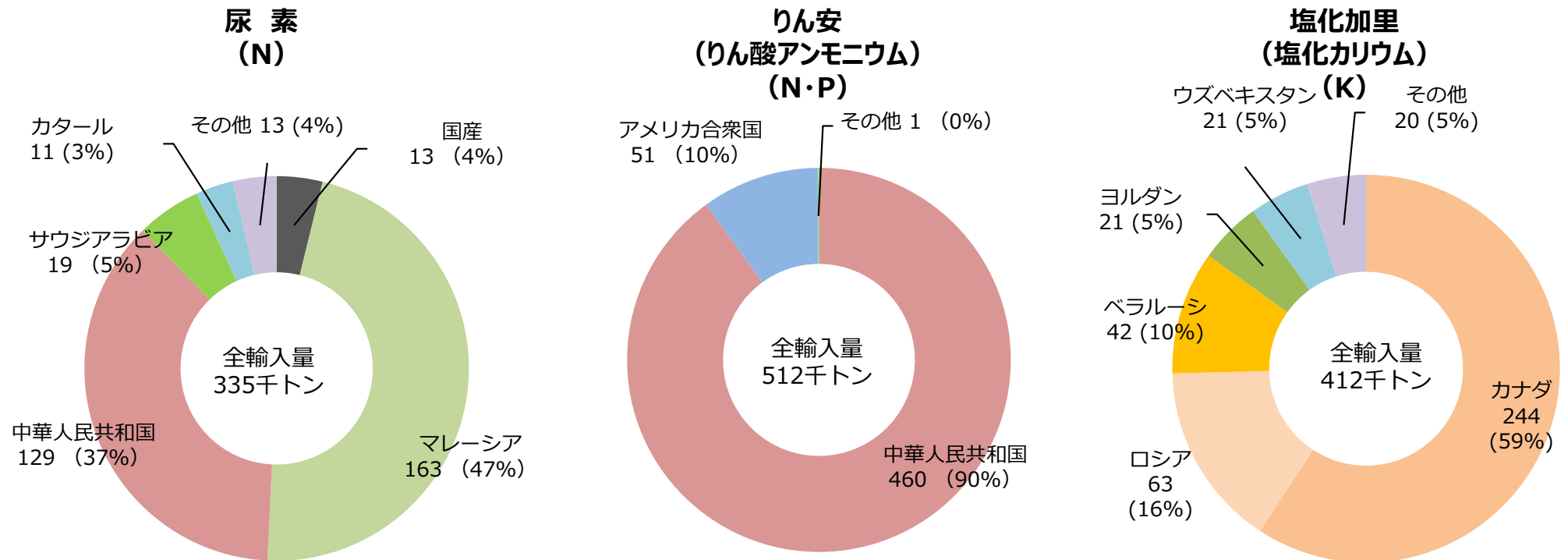
- 化学肥料は、一般に化石燃料（原油、天然ガス）や鉱物資源（りん鉱石、加里鉱石等）が原料として使用される。

### 【主な製造工程】



### 3 化学肥料原料の輸入相手国、輸入量

- 主な化学肥料の原料である尿素、りん安（りん酸アンモニウム）、塩化加里（塩化カリウム）は、ほぼ全量を輸入。世界的に資源が偏在しているため、輸入相手国も偏在。
- 尿素はマレーシア及び中国、りん安は中国、塩化加里はカナダが主な輸入相手国。



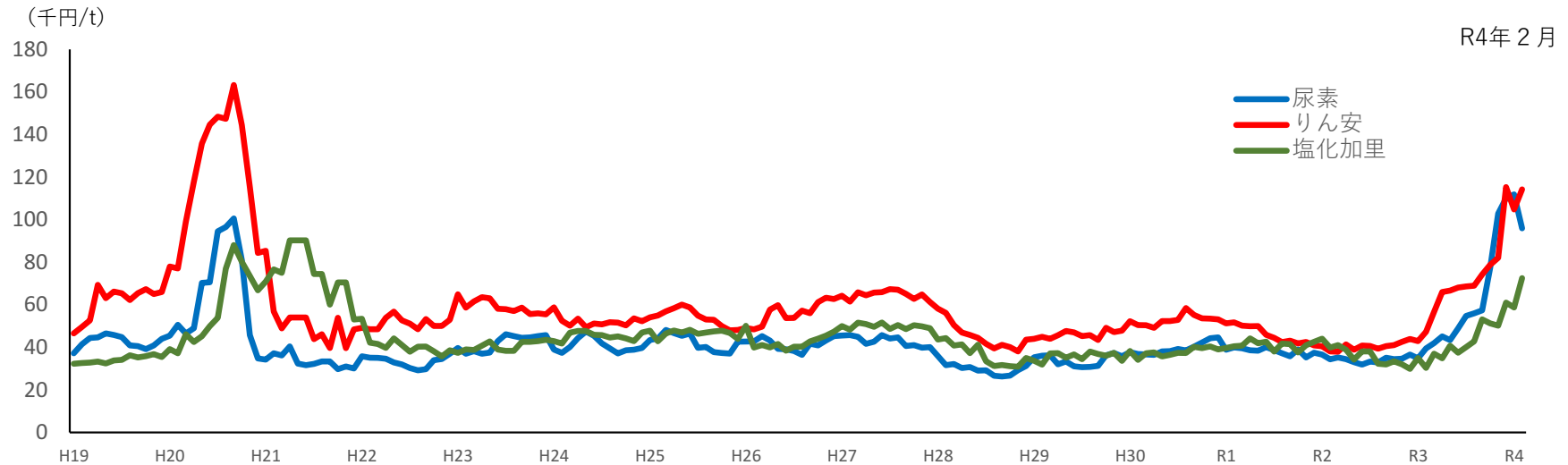
※ 資料：財務省「貿易統計」等を基に作成（令和2年7月～令和3年6月）



## 4 肥料価格の推移

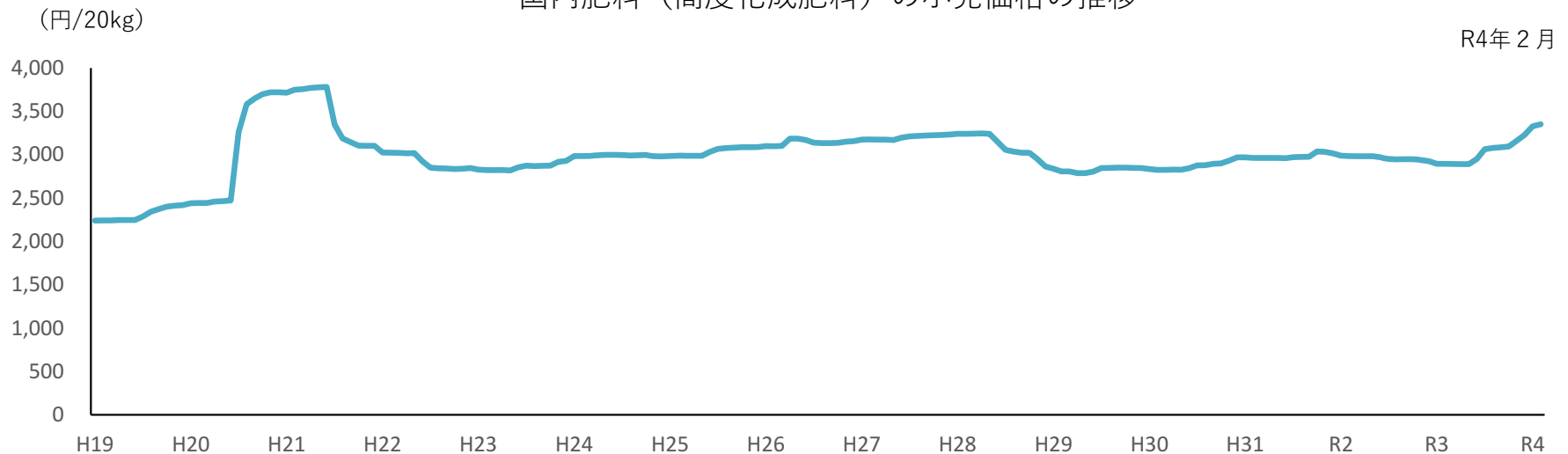
- 肥料原料の輸入価格は、2021年（令和3年）以降、上昇傾向。
- 高度化成肥料の小売価格についても、令和3年の秋頃から上昇傾向。

肥料原料の輸入価格の推移



※ 農林水産省調べ  
財務省貿易統計における各原料の輸入額を輸入量で除して算出。  
ただし、月当たりの輸入量が5,000t以下の月は前月の価格を表記。

国内肥料（高度化成肥料）の小売価格の推移



資料：農林水産省「農作物価統計調査」を基に作成

出展「令和4年4月 肥料をめぐる情勢（農林水産省農産局技術普及課）」

# 肥料コスト低減体系緊急転換事業

## <対策のポイント>

化学肥料の原料に係る国際市況の影響を受けにくい生産体制づくりを早急に進めるため、慣行の施肥体系から、**肥料コスト低減体系への転換**を進める取組を支援します。

## <事業目標>

次期作以降の肥料コスト又は施肥量低減計画の策定 [令和4年度まで]

## <事業の内容>

### 1. 肥料コスト低減体系への転換確立に向けた検討会の開催

肥料コスト低減体系への転換を各地域で検討する場づくりを支援します。

### 2. 肥料コスト低減体系への転換

肥料コスト低減体系への転換を進める取組（「**土壌診断**」や「**肥料コスト低減に資する技術**」）を各地域で支援します。

#### 【①土壌診断】

土壌診断及び診断結果に基づく施肥設計の見直しに必要な取組を支援します。

#### 【②肥料コスト低減に資する技術】

新たに実施する「**肥料コスト又は施肥量を低減する技術**」を活用した取組の実証を支援します。

※①のみ又は②のみの取組でも対象（令和3年度補正予算事業の運用改善）

### 3. 肥料コスト低減効果の情報発信

肥料コスト低減体系の効果の情報発信を支援します。

#### <事業の流れ>



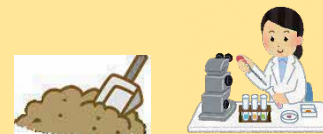
## <事業イメージ>

慣行の施肥体系 → 地域に適した肥料コスト低減体系の計画を策定

### ①土壌診断

【支援対象取組】

- \* 土壌診断
- \* 診断結果に基づく処方箋の作成（施肥設計）
- \* 適正施肥の指導



### ②肥料コスト低減に資する技術

【支援対象取組】

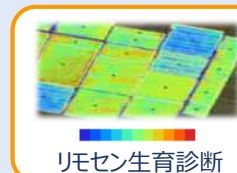
- \* 新たに実施する肥料コスト低減に資する技術

（取り組む技術に応じて、公募審査時にポイントを加算）



堆肥施用

◆ ポイント加算技術



リモセン生育診断



ドローン追肥



局所施肥技術



可変施肥技術

等

※①のみ又は②のみの取組でも対象

**肥料コスト低減体系に転換！**

肥料コスト低減体系の  
効果の情報発信

[お問い合わせ先] 農産局技術普及課 (03-6744-2435)



# ○ 化学肥料原料調達支援緊急対策事業

【令和4年度一般予備費 10,020百万円】

## <対策のポイント>

世界的な穀物需要の増加やエネルギー価格の上昇に伴い化学肥料原料の価格が高騰しています。更に、中国やロシア等の特定の輸入先国からの原料調達が困難となっていることから、**農業経営に必要な量の肥料を確保するため、代替国からの原料調達に要する経費の緊急的な支援**を通じて、**肥料の安定供給**を図ります。

## <政策目標>

- 需要を満たす化学肥料の供給量の確保 [令和4年度まで]

## <事業の内容>

肥料製造事業者が本年秋までに調達を要する**主要な化学肥料原料**（秋用肥料原料等）について、代替国からの調達に要するコスト（輸送費・保管費）の上昇分の**掛かり増し経費を緊急的に支援**します。

## <事業イメージ>



代替国からの緊急輸入等  
（輸入先国の多元化）

## <事業の流れ>



主要な化学肥料原料を確保



## 肥料原料価格の高騰対策について

- 現在の肥料原料価格の上昇を受けて、農産品全般の生産コスト1割削減を目指して、化学肥料2割低減の取組を行う農業者の肥料コスト上昇分の7割を補填する、新たな支援金の仕組みを創設し、実施する。
- これにより、足元の肥料高騰に伴うコスト増を抑制するとともに、今般設定した2030年化学肥料2割低減目標の達成に向けて先行して取り組む農業者を強かに支援することで、農業のグリーン化を強かに推進。

